

遺伝性乳がん卵巣がん 症候群について

Q1 遺伝性におこる乳がんがあると聞いたのですが？

がんの発症原因となるものとして喫煙や食生活などの生活環境によるものと遺伝によるものに大別されるといわれています。乳がんでは7〜10%程度に遺伝子が関与していると考えられています。様々な遺伝子の異常が知られています。いちばん多くを占めているのが遺伝性乳がん卵巣がん症候群(Hereditary breast and ovarian cancer syndrome: 以下HBOCと表記します)でBRCA1という生殖細胞系列の遺伝子変異を原因として乳がん

Q2 HBOCとはどのようなものなのでしょうか？

HBOCはBRCA1もしくはBRCA2という遺伝子に異常があることがわかっています。BRCA1/2は主に遺伝子の修復に関与する遺伝子であることがわかっており、常染色体優性遺伝の遺伝形式を示すとされます。日常生活においては放射線や発がん性物質への暴露など様々な原因で遺伝子に異常が生じることがありますが、通常は修復機構により修復されたり細

や卵巣がんといったがんが起きやすいとされる症候群です。



ません。また、治療薬としてオラパリブというBRCA遺伝子に異常がある場合に効果があるお薬を使用することが可能になります。

Q3 HBOCではどのようながんが多いのでしょうか？

胞死を引き起こしたりして異常をきたした細胞が増えない様に制御されています。BRCA1/2に異常があると遺伝子異常の修復がうまくできなくなり異常を持った細胞が増えやすいため、がんになりやすいとされます。

Q5 HBOCと診断された場合はどうすればよいのでしょうか？

近親者に乳がん、膵がん、前立腺がん患者がいる
③60歳以下で発症したトリプルネガティブ(ホルモン感受性とHER2どちらも陰性)乳がんであると考えられます。
これらに当てはまる場合は保険適用内でBRCA遺伝子の変異を検査することができます。

女性では乳がん、卵巣がんのリスクが高く、乳がんの累積罹患リスクは70歳でBRCA1変異保持者57%、BRCA2変異保持者40%とされています。卵巣がんは70歳でそれぞれ40%、18%であるとされます。
男性では前立腺がんの罹患リスクが高く通常の2〜6倍の罹患リスクがあるとされます。また、男性乳がんの発症も多くなります。

Q4 どのような場合にHBOCが疑われるのでしょうか？

乳がん患者でのHBOCの八

今のところBRCA遺伝子の変異そのものを治すことはできませんのでがんになるリスクを下げたり、早期発見をすることが重要です。具体的にはがんが発症する前に乳房や卵巣を切除することや、早期発見のための検診をしっかりと行うことが対応策となります。
すでに乳がんを発症している場合は腫瘍が小さくても乳房の部分切除はあまりおすすめてでき

今月の先生 岐阜市民病院 乳腺外科
中田 琢巳

- 専門分野
乳がん診療
- 役職
乳腺外科部長
外来化学療法部長
- 主な資格、認定
日本外科学会専門医
日本乳癌学会指導医・専門医
日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師
- 卒業年、主な職歴
平成3年岐阜大学医学部卒
岐阜大学医学部附属病院第2外科

